

## 日本視覚学会 Notice Board

日本視覚学会関係

■ 2001年冬季大会

2001年冬季研究会は次のように開催される予定です。ふるってご参加下さい。詳細につきましては、会員の皆様におってご連絡致します。

日時：2001年1月22日（月）～24日（金）

場所：工学院大学（予定）

実行委員：近江政雄（委員長）、朝倉暢彦（金沢工大）、金子寛彦（東工大）、  
河原哲夫（金沢工大）、下野孝一（東京商船大）、三橋俊文（トプコン）、  
矢野澄男（NHK技研）、淀川英司（工学院大）

■ 2000年会費について

未納の方は至急払込み下さい。詳細は、VISION 1号とともに郵送された案内をご覧ください。

■ 2000年夏季大会講演要旨募集

夏季大会で一般講演された方で講演要旨（2ページまたは4ページ）を提出される方に本誌の締め切り状況をお知らせいたします。次号4号は10月20日発行予定で、おおよそ三週間前にカメラレディの原稿を渡す必要があります。カメラレディの原稿は皆さんから頂いたファイルをもとに編集事務局でページメーカーを利用して作成しております。そのような事情ですので、8月末までに編集事務局に到着した原稿は大きな問題点がないかぎり4号に掲載できます。9月中旬に多くの原稿が集中すると、一部、次回回しとなることも考えられます。その際には編集の手間が少なくすむものが優先されることもあります。ご了承下さい。

なお、図中の文字がOsakaフォントのものは印字がうまくいきません。一般的なPSプリンタで使用可能な細明朝体（LリユーミンL-KL）か中ゴシック体（M中ゴシックBBB）または標準的な英字フォントをご利用下さい。また、一般的にワードアート、パワーポイントで作成された図表はたとえPICTファイルになっていてもいっさい編集が利かず文字の印字は乱れます。ご了承願います。

ページメーカーが利用可能な方はテンプレイトを作成いたしましたのでご請求下さい。

肝心な内容に関しましては、会場で行われた討論が十分に反映されていることが期待されます。

日本視覚学会協賛の会合のご案内

■ 日本人間工学会主催「ケータイ・カーナビの利用性と人間工学シンポジウム」

日時：2001年2月21-22日

会場：名古屋市工業研究所

参加費：主催学会会員・視覚学会など協賛学会会員：12,000円（12/31までは10,000円）

一般：18,000円

発表申し込み締め切り：2000年9月30日

詳細は日本視覚学会のホームページ（<http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/vsj2/>）からリンクが張られておりますのでそちらをご参照ください。

■日本光学会視覚研究グループ「動物の視覚特性とメカニズム」講演会

日時：2000年9月1日（金）13:30～17:00

場所：東京工業大学百年記念館フェライト会議室（東京・大岡山）

参加費：未定（学生は無料，視覚学会などの協賛学会会員は無料）

連絡先：岡嶋克典（防衛大学校 応用物理学科）

<講演要旨>

網膜情報の様々な終止部位

杉田昭栄（宇都宮大学）

網膜からの視覚情報は中枢神経内の様々の神経核に終止する。多くの情報は外側膝状体を経て視覚領に達する。この系は主に外界を像として認識するための系である。しかし、網膜からの情報は、体内リズムのセンターと言われる視床下部の視交叉上核や視性運動を引き起こす脳の上丘、縮瞳の中継核である視蓋前核の中脳オリブ核などの様々な部位に入る。本会ではこのような神経核を紹介するとともにヒトを含めてこのような系の動物種間の特徴を紹介する。また、若干動物間にみられる網膜の特徴なども紹介したい。

チョウに色が見えるかー複眼網膜の細胞構成と色覚

蟻川謙太郎（横浜市立大学／科技団さきがけ研究21）

チョウは、蜜を求めて色とりどりの花を訪れる。このため誰もがチョウ類も色を見ていると信じていたが、それが証明されたのはつい昨年のことである。ここではまず、アゲハを使った色覚の実験を紹介する。アゲハの色覚にはいわゆる色の恒常性もある。ところで、色を見るには少なくとも2種類の色受容細胞が必要である。アゲハ複眼を詳しく調べたところ、少なくとも5種類の細胞が見つかった。これらの細胞の複眼内分布を調べる実験を紹介しながら、網膜の細胞構成のはたらしきについて考えたい。

ハトにおける視覚的カテゴリー弁別

実森正子（千葉大学）

ハトは、視覚的にきわめて優れた動物である。また、古くから学習心理学や行動研究に用いられてきたので、行動の実験方法が確立されている。そのため、ハトを被験体として色覚、運動視、錯視などの心理物理学的研究が早くから行なわれ、最近では形の orientation invariance や rotation invariance、補完、またカテゴリー弁別などの認知研究も多数行なわれるようになった。ハトを中心とした動物での視知覚や認知の研究法を概括した後、カテゴリー弁別について最近の研究成果を紹介する。

□NoticeBoard, News に掲載する案内等がございましたらお知らせ願います。

日本視覚学会事務局：

〒924-0838 石川県松任市八束穂 3-1 金沢工業大学人間情報システム研究所 気付

電話 076-274-8250

ファックス 076-274-8251

メール vision@mattolab.kanazawa-it.ac.jp